

放課後等デイサービス事業所における 自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和4年2月15日

公表: 令和 4年3月14日

児童発達支援 放課後デイサービスぱれっと 職員数7 回収数7

		チェック項目	はい	いいえ	どちらでもない	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6		1	各個人、テーブル・パーテーションでの仕切りをつけたり間隔をあけ空間を確保している
	2	職員の配置数は適切である	7			利用人数に応じた配置基準の職員を配置している
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	/	/	/	現在、バリアフリーを必要とする児童がいないため、今後必要に応じ対策をしていく予定
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7			日々のミーティングで適宜振り返りや目標設定をし、職員間で共有している
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			今年度初めての自己評価のため、改善につなげていこうと思う
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5		2	ホームページ上で公開 https://www.gurutto-fujinomiya.com/school/palette/index.html
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	3	2	第三者機関からの外部評価は受けていないが、第三者からの意見は改善につなげていこうと思っている
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5		2	社内研修や社外研修は積極的に参加するよう努力している
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7			保護者や児童のニーズを把握し、日々のミーティングや個別支援計画に沿って実践している
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	5		2	ケース会議での内容やウイスク検査の内容を活用し共通理解を深めている
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		1	活動プログラムを立てるにあたり、個々の意見を反映しながら立案している
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7			ケース会議などを通し職員会議で見直ししている
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6		1	その日の各個人のスケジュールに沿い、個別プランを立てて実践している
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7			個別活動や集団活動において、子どもが興味を持てるような活動を計画実践している
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6		1	毎日のミーティングやホワイトボードでの提示で情報共有し連絡事項を伝えている
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7			毎日の記録を記入する際に、その日の出来事や様子を共有している
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7			日々の提供記録に支援の様子や子どもの行動などを記録している
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7			基本6ヶ月毎に見直しは行いが、毎月の職員会議でも適宜共有している
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	6	1		必要に応じ適宜組み合わせ、支援につなげている	
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6		1	児童発達管理責任者が出席するようにしている
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	7			基本的には保護者経由にて学校行事や年間計画を共有しているが、急な対応に関しては直接学校とのやり取りを行い、情報共有をして対応している
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	/	/	/	現在、医療ケアが必要な児童はいないが、必要に応じて連携を図っていく

関係機関や保護者との連携	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	2	2	3	現在は必要なケースがないが、今後必要であれば連携していく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	/	/	/	現在そのようなケースは無いが、今後必要な場合は連携を図っていく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	1		6	研修には積極的に参加している
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		5	2	コロナの影響で積極的にできなかったため、今後できるようになれば交流を図っていく
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	2	1	4	積極的に参加するようにしている
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7			お迎えの際に必ず伝達するようにしている。また、必要時には電話やメールなどで連絡を取るようにしている
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	4		3	
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6		1	契約時には保護者と一緒に読み合わせを行っている。運営規定の変更時には適宜伝達や表示をしている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7			相談を受けた際には適宜対応し、支援につなげている。また、職員間で共有できるようにしている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		7		コロナのため開催はできなかったが、今後できるようであれば適宜開催していきたい
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7			その都度誠意を持って対応するとともに、職員間で共有できるようにしている
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	3	長期休み前には、行事予定を紙面で提示したり日々口頭でお迎えの際案内したりしている
	35	個人情報に十分注意している	7			職員個々で個人情報同意書にて周知徹底している
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6		1	各個人に合わせ実施している
37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	4	コロナのため難しい状況であった	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7			マニュアルの読み合わせや見直しなどを適宜行い、職員には室内の掲示などにて周知できている
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7			避難訓練を年2回開催した
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7			適宜研修に参加し、研修内容の共有を会議で実施している
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	6		1	身体的被害が及ぶ危険がある場合に限り、保護者・児童の同意を得たうえで対策を実施するようにする
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7			指示・情報によりおやつなど考えている
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7			職員会議や日々のミーティングにて共有できている	